

# BCP / BCM

## 基本的な考え方

トッパンは、生活に必要な製品・サービスを提供しています。例えば情報分野ではキャッシュレス決済関連サービスやICカード関連サービス、包装分野では様々な食品、医薬品向けのパッケージ製品、エレクトロニクス分野では電子機器に組み込まれる様々な部品（部材）をお客さま企業に提供しています。大規模な災害の発生により、これらの製品の出荷が滞った場合には、お客さま企業をはじめ消費者の皆さまに多大なる影響を与えてしまいます。そのため、トッパンでは災害

が発生した際に、従業員の安全を確保し、会社の損害を最小限に抑えるために、「災害対策基本計画」を策定し、定期的な見直しを行っています。

トッパンが事業継続マネジメント活動（BCM）を行う目的は、お客さまへの製品・サービス提供を通じて、持続可能な社会の実現に向けた社会的責任を果たすことにあり、これを推進しています。

## 推進体制・仕組み

### ■ 推進体制

本社、法務・知的財産本部内に設置された BCP 推進室が中心となり、全社的な活動を推進しています。また、活動を全国に水平展開するために、本社各本部、および全国の事業（本）部に BCP 推進担当者を配置しています。BCP 推進室は、全国の BCP 推進担当者と連携し、様々な取り組みを行っています。

平常時においては、主に以下の取り組みを行っています。

- ・大規模な災害の発生を想定した行動手順の定期的な見直し、およびそれらを検証するための模擬訓練の実施
- ・総合防災訓練、自衛消防訓練、従業員およびその家族を対象とする安否確認訓練の実施
- ・帰宅困難者、近隣住民への支援を想定した水や食料品の備蓄、および防災用具の整備
- ・社内連絡会議（年 4 回）、関係会社連絡会議（年 2 回）の開催
- ・非常時対策本部の設置、運営の準備
- ・首都直下型地震を想定した、関西地区での代替本部体制の準備

また、災害発生時には、被災した地域の各事業拠点、および本社において直ちに非常時対策本部を設置し、災害対策基本計画に基づく復旧活動を行うこととしています。

### ■ 推進の仕組み

災害が発生したら、冷静で迅速な対応が求められます。そのためには、一人ひとりがなすべきこと（役割）を理解することが重要です。

BCP 推進室では、新たに防災専用のホームページを開設し、全従業員へ向けた情報発信を開始しました。また、従来より BCP 推進担当者に対して、関連する資格の取得支援を行っています。

全国の事業所に対しては、拠点ごとに BCM にかかわる各種訓練を行い、事業内容に応じた危機管理能力の向上を図っています。

また、原材料調達先や生産協力会社に対しては、個別に行うアンケート調査と、外部講師による勉強会（グループ討議、演習）を通じて、事業継続能力のボトムアップを図っています。

一方、活動を評価する社内の仕組みとして、アンケート調査による自己評価を実施しています。評価結果は、各事業（本）部ごとに経営層へのマネジメントレビューで報告され、活動の改善につなげています。なお、厳格な事業継続が必要とされる事業については、ISO22301 の認証を取得し、継続的な PDCA 活動に基づき改善を進めています。

## 主な活動・関連情報

### 全国 52 拠点・部門、のべ 100 回以上の各種訓練を実施

トッパンでは、本社および全国の事業拠点で、定期的な総合防災訓練を実施し、被災状況把握、避難誘導、安否確認、備蓄品配布、徒歩帰宅といった、想定される一連の行動を繰り返し確認しています。

また、災害発生時には、速やかに非常時対策本部を設置し運営できるよう、独自に考案した「対策本部運営模擬訓練」をすべての事業（本）部で実施しています。この訓練は、独自に設計した情報共有ツールや非常時用の IP 無線システムなどを使用し、実際に対策本部を立ち上げて運営する内容になっています。

トッパンでは、BCM 活動の中でも、特に訓練の実施が重要であると認識しています。一連の訓練を通じて、個々の従業員に自らの役割を

理解してもらうとともに、明らかとなった課題については、対策の実施と訓練による検証を繰り返し行うことで、大規模災害発生時の対応力をさらに高められるよう、活動を継続していきます。



対策本部運営模擬訓練（三ヶ日工場）



建屋立入診断訓練（滋賀工場）

### 取引先向け BCP 勉強会

トッパンでは、東日本大震災の経験から、BCP におけるサプライチェーンの重要性を認識しており、その強化を目的として、取引先向けの勉強会を年に 1 回開催しています。講師は外部から専門家を招き、BCP に取り組む重要性について学びます。さらに、トッパンの取り組み事例（教育訓練の事例、情報共有ツールの説明）の紹介や、課題確認のワークショップも行います。このワークショップでは、参加者の皆さまが意見交換を行うなど、新たな試みも実施しています。過去の参加者からいただいたご意見として、「有事の際のトッパンとの情報共有、および連携して対応することの重要性を改めて認識できた」、「同じ立場の皆さまと意見交換したことにより課題解決に対するアプローチのヒントになる情報も得られ、とても有意義であった」など、高い評価をいただきました。

昨年度は、2 月下旬に勉強会を開催すべく準備を進めていましたが、新

型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されたため、参加者の安全を最優先し開催を中止しました。他方、今回の感染症拡大に際して、取引先との情報共有を速やかに行い対策することで、サプライチェーンへの影響は最小限に留まっています。今後もお客さまへの信頼に応えるために、より多くの取引先の皆さまに参加していただけるよう、勉強会を継続していきたいと考えています。



勉強会の様子（本社）

### セキュア系事業における ISO22301 取得

東日本大震災では多くの企業が被災し、生産設備の損傷や原材料の調達難により、事業活動の停止を余儀なくされました。トッパンでは、震災直後から BCP 策定を本格的に開始し、PDCA サイクルによる継続的な活動を全社に展開してきました。但し、カード発行業務やダイレクトメール作成業務、バックオフィス受託業務、有価証券発行業務など、セキュリティにかかわる業務については、お客さまにより一層の信頼を提供する必要があると考え、2018 年の 2 月に ISO22301（事

業継続マネジメントシステムに関する国際標準規格）の認証を取得しました。

近年、大型台風の上陸による大規模な河川の氾濫、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大など、事業継続にかかわるリスクは増大しています。トッパンは、新たなリスクに対応しつつ、今後もお客さまの要望や市場動向を見極め、対象となる業務の適用範囲を拡げていきます。